

心エコー：施設間でどこまで、どうやって統一するか？

赤坂 和美

抄 録

心エコー検査は多くの施設において施行されているが、その超音波診断の施設間差は改善すべき課題である。限られた地域における調査結果ではあるが、ルーチンに計測される率には計測項目により差があり、質の高い検査を達成するためには検査者数や検査時間を確保し、検査者の専門性を高め、相談できる循環器専門医を確保することなどが求められている現場の現状が明らかになった。一方で、標準化のために計測項目や計測方法の統一が果たす役割は大きい。どこまで計測項目を求めるかは難しい問題であるが、検査所見に基づく治療方針の統一性を図るための心エコー検査の標準化が望まれる。検査者の知識レベルと技術レベルを維持するためには、地域格差を生まない方法での教育や研修が必要である。また、相談のできる専門医がいない施設の検査者に向けた、組織的な取り組みも望まれる。

How and to what level should we standardize echocardiography between institutions?

Kazumi AKASAKA

Abstract

Although echocardiography has been performed in many institutions, differences between institutions in echocardiographic diagnosis need to be addressed. For example, there is a difference in the implementation rate depending on the measurement item in Hokkaido Prefecture. To achieve better examinations, the expertise of the examiner, securing a sufficient number of examiners and time allocated for echocardiography, and the presence of a cardiovascular specialist who can be consulted are necessary. Standardization of measurement items and measurement methods plays a big role. Determining measurement items is a difficult problem, but it is desirable to standardize echocardiography to aim for uniform treatment policies based on echocardiographic findings. In order to maintain the knowledge level and technical level of examiners, education and training in a way that does not create regional disparities are necessary. Organized efforts are also desired for examiners at institutions that do not have cardiovascular specialists who can be consulted.

Keywords

echocardiography, standardization, measurement

1. はじめに

心エコー検査の標準化は、重要な課題である。北海道は広大な土地に居住区が点在しており、冬期は厳しい気候による交通事情の悪化もあるため、施設間における標準化の意義は大きい。日本超音波医学会から発表されている「標準的評価法」は、検体部門に比して標準化の難しい超音波検査において、大きな役割を果たしている。しかしながら、各施設の担うべき役割と置かれている状況などの多様性が、標準化を難しくさせる。本稿では北海道における現状を参考に、施設間における心エコー検査の統一に

ついて考えてみたい。

2. 日常検査の現状

北海道で2017年に開催された心エコー検査関連の研究会に参加した248名に、標準化に関するアンケート（設問数10問、所要時間約3分）を実施した。回答者160名（回答率64.5%）のうち144名（90.0%）が臨床検査技師と診療放射線技師であった。ルーチン検査における計測項目（描出不良例を除く）をFig. 1に示す。常に計測されている項目は、径計測においては左室拡張末期径（LVDD）と左室収縮末期径（LVDs）が96.3%、心室中隔厚（IVST）